

コンクリートカッターを構成する部品の大半を自社製造 月産5台、6台ペースで納品 — 宮崎龍一氏に聞く —

クライム(東京都・大田区) ユキワ精工ユーザー訪問
振動が少なく、切削音も静かなうえ、
バリの発生も抑制



スーパーG1チャックを手にする宮崎龍一さん

道路を修繕する工事現場などで、コンクリートを破砕し除去していく機械を目にしたことがあるだろうか。文字通りコンクリートカッターと言うネーミングらしいが、昭和51年創業のクライムではこのカッターを構成する数百点にも上る部品の大半を自社で製作し、組み立て販売している。

創業者の子息で製造を担う宮崎龍一氏は「コンクリートカッターメーカーは、日本では現在、当社を含め2社しかない。受注及び販売は商社ルートを通じて行っているが、月産で5台、6台ペース。エンジン以外は、ほぼ自社製造できるのが強みだ」と語る。

製品名は社名から命名されたクライム

「正確に組み上げていくためには、部品ひとつひとつの精度が求められる。現場での作業手順としては、エンジンを始動させ、出力軸に伝えて、ベルトで繋いだフレッドシャフトを回転させて切断していく。装着されるのはダイヤモンドブレードだと言う。注文の対応では、部品在庫を切らさないようにするのがポイントで、2〜3か月の

スーパーG1チャックを初オーダー
ワークの切断面がきれいになり、寸法精度もアップ

「頑強さを追求した立方体構造」
クライムカッターと命名。頑強さを追求した結果、立方体構造を採用していると言う。
「正確に組み上げていくためには、部品ひとつひとつの精度が求められる。現場での作業手順としては、エンジンを始動させ、出力軸に伝えて、ベルトで繋いだフレッドシャフトを回転させて切断していく。装着されるのはダイヤモンドブレードだと言う。注文の対応では、部品在庫を切らさないようにするのがポイントで、2〜3か月の

「剛性の高さを証明しているのだから、加工が非常に楽になった。ワークの切断面がきれいで、寸法精度も上がった。振動が少なく、切削音が静かになり、バリの発生も抑制され、後処理がスムーズに。まさにいいこと尽くめになった」とほか「ブリーのキー溝加工でもスーパーG1チャックを採用し、時間短縮に繋がっている」と言う。

「新規のプラザー工業のスピーディオ導入時に、今は廃棄されたが、当時、40番主軸のエンジン用製マシニングセンターで鋳物加工を難なく行っていたのが、30番主軸のスピーディオでは上手く削れず、ツリーングをどうするかという話になった。エンジン用製に装着されていたツリーングがユキワ製の最新のものに交換したところ、一度最新のツリーングだったスピーディオで試すつもりだったが、スピーディオのツリーングが国内で注文することになった。今後とも期待するた」のが経緯のようだ。ユキワは多いだろう。



スーパーG1チャックの採用で
鋳物加工も楽々に



クライムコンクリートカッターの内部

ユキワだけ精度を
保証！
しています。



高精度ツリーングシステム
スーパーG1チャック

YUKIWA ユキワ精工株式会社
スーパーG1チャック 検索
http://www.yukiwa.co.jp/

本社・工場/〒947-0052 新潟県小千谷市千谷2600番地1 TEL.0258-81-1111(代) FAX.0258-81-1112
営業所/東京、名古屋、大阪、中国(上海)、U.S.A.